

**大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書**

測定年度	令和5年度	学校コード	F102310100630	設置等組織名	工学部 クリーン科学技術学科（予定）、社会創造学科（予定）、情報デザイン学科（予定）
大学名	八戸工業大学	設置区分	私立	事業計画名	成長分野への転換に向けた学科新設計画
学校種	大学	都道府県	青森県		

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画が変更又は追加、追加がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請した場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その点課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	令和5年度 学部学科構成・学部学科名称等の仮決定。各学科の育成すべき人材像と3ポリシーの決定。キャンパス内建築調査、デジタル分野の人材育成に関する産官学連携推進会議の開催。八戸市・八戸産官学連携推進会議との中心市キャンパス移転に関する検討会設置。八戸市産官学連携推進会議での構想の説明と意見交換。文科省事前相談 令和6年度 カリキュラム基本設計。入学選抜方法の基本設計。キャンパスの計画・設計。八戸学院大学、八戸高専、東北大学、JAMSTEC/QSTなどの連携関係について協議 令和7年度 カリキュラム詳細設計・確定。入学選抜方法の詳細設計・決定 令和5年度～7年度のフェーズ1期間に以下の学生確保の取組を実施： HITリジナルABOの活性化。留学生確保の検討。履修証明プログラムの拡充。STEAM教育や文理融合カリキュラムの研究・導入。通信教育課程の導入検討など	令和5年度 ・学部学科構成・学部学科名称等の仮決定 ・各学科の育成すべき人材像と3ポリシーの決定 ・学内検討組織を創設し、高等学校等の調査結果を踏まえ、検討を継続中。 ・2学部での改組も視野に検討中。 ・キャンパス内建築調査 →一定の建築調査を実施 ・デジタル分野の人材育成に関する産官学連携推進会議の開催 ・八戸市・八戸産官学連携推進会議との中心市キャンパス移転に関する検討会設置 →検討組織の設立には至っていないが、関係者との協議を実施。コンクルを通じて、中心市キャンパス移転及びサテライトキャンパスの検討を継続中。 ・八戸市産官学連携推進会議での構想の説明と意見交換。文科省事前相談 →八戸市産官学連携推進会議での定期協議を開催し、意見交換を行ったが、文科省への事前相談する課題等発生していない。 令和6年度～7年度のフェーズ1期間に以下の学生確保の取組を実施： HITリジナルABOの活性化。留学生確保の検討。履修証明プログラムの拡充。STEAM教育や文理融合カリキュラムの研究・導入。通信教育課程の導入検討など →HITリジナルABOの活性化：JST実習事業として活動を進化させ、中高生への啓発活動を主に活性化。 →留学生確保の検討：優先として特定技能実習取得者のドジャースモデルを構築 →履修証明プログラムの拡充：継続プログラムに加え、新たに1プログラムを開発。	令和5年度自己評価	〔3〕計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ1 前巻し			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和7年度		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ1 後巻し			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	① 教育内容 文部科学省手続 ② 学習環境 令和8年度 施設設備の充実 ③ 外部機関との連携等 令和8年度 教育プログラムの確立 ④ 学生確保の取組 令和8年度 募集広報・学生募集活動、取組の継続		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和9年度開設		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 後巻し			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	・毎年度計画に則った教育の実施。授業評価アンケートとラーニングポートフォリオによる科目レベルの点検・改善 ・デジタルでポリシー（※前巻）に基づき達成度評価。外部システムより卒業生の就職先企業のアンケート調査等の実施による。プログラムレベル（カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）の点検・改善 ・学生の満足度調査および学生から意見を取り入れる仕組み等により学習内容・環境の点検・改善 ・ラーニングポートフォリオによる学生の学習活動の記録。学内POCAサイクルの展開 ・デジタル分野・グリーン分野をターゲットにしたキャリアデザインの実施。インターンシップの計画・充実および就職等の進路開拓 ・外部機関による事業評価 ・通信教育課程の導入の検討など		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止			○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	八戸工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請条件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている ☒ チェック 確認の対象に該当しない ☐ チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが顕在化する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑨	事業計画の策定があった日から4年を経過する日を含む年度の半日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った ☒ チェック	
⑩	大学の収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる ☒ チェック	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	八戸工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑤	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	■ チェック	
⑥	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック	
⑦	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

[A：連携を通じた教育体制の整備と実施]（準備確認科目等に該当しない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施：2017年度より建築・土木工学分野においては、八戸市（株）まぐづの八戸と連携して、八戸市中心市街地の課題解決策案を検討する授業を実施している。毎年度末には八戸市長に学生が九人参加しており、この授業での提案が基本構想となって実現した事業もある。また、デザイン分野においては、これまで多くの企業や自治体を受けて学生がデザイン提案を行う授業を実施してきた。これらの実績を元に、各分野において、企業や自治体と連携したPBL等の取組を充実させる。なお、八戸産学官連携推進会議においては、令和4年度から高等教育機関4校の学生が受講できる横濱（八戸地域学）を共同開発している。これはPBL科目ではないが、連携を通じた教育の代表例である。関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施：たとえば、カーボンニュートラルの実現のためにはカーボンクレジット等の制度設計が重要であるなど、グリーン社会実現のためには経済や経営等の知見が必要な場合も多い。八戸学院大学は、経営学や経済学に強みを持つ大学であり、連携した教育体制を構築したい。	申請時の計画のとおり、企業や自治体と連携した科目をこれまでの実績を基に継続実施している。同じく、継続実施している他教育機関との連携による科目（八戸地域学）も継続開講しており、若者の地域定着を推進する自治体の注目の取組となっている。 カーボンニュートラルの実現のための科目については、本学カーボンニュートラルロードマップに基づき、着実に展開している。	カーボンニュートラルはグローバルな課題であるが、未だ学内での講義展開にとどまっている。近隣の高等教育機関、協定を締結している海外の大学との連携を視野にさらに拡充を試みる。

[B：多様な入学者の確保に向けた取組]

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
■ チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスティングへの対応）
■ チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
学科・分野再編や文理融合を行う中で、アタラシイポリシーを見直す必要がある。これに伴って科目等についても見直す予定である。HITリテラシーラボの活動の活性化を図る。また、情報デザイン学科を八戸市中心市街地に移転することで、デジタル分野において女子学生増を目指す。同時に、出張講義・大学見学・総合的な学習の時間の実施など、初等中等教育との連携活動も実行している。現在、特に、総合学習に対する大学のリソースの提供方法や支援・連携強化について検討を進めている。令和5年度は3プログラムの履修証明プログラムを青森県内3箇所を実施予定であり、今後さらに充実させていく予定である。また、社会人学生の受け入れに向けた学事課の柔軟化や1年次授業の検討などもフェーズ1では実施予定である。令和5年度より、留学生の受入れ強化に向けて検討を開始した。生活面での支援などについては、市内他の高等教育機関や行政機関の協力等も必要なので、八戸産学官連携推進会議においても検討を進める。	フェーズ1の初期段階である令和5年度において、既存の取組については継続実施しており、更に深化するよう展開を試みる。 改組検討のための将来計画委員会の下側にガバナンス検討部会を設け、ガバナンス及びポリシーの見直しの検討を開始した。HITリテラシーラボの活動を起点に学生募集において女子枠を設け、募集要項を改定した。八戸市中心街への一部キャンパス移転については、他地域への移転も視野に継続検討を行う。大学のリソースを活用した初等中等教育機関を含めた総合的な学習に対しての学習機会を提供は二一を把握したうえで本学の特色ある取組となるよう定着化を図る。新たに一つのプログラムを加えた履修証明プログラムは、複数年で単位取得可能なプログラムとなっており、リカレントの受入れ場になっている。学事課を柔軟化し、先ず大学院博士後期課程の受入れを学期開始からとなるよう学期を改正した。留学生の受け入れ強化の喚起として、特定技能実習取得のビジネスモデルを構築し、行政機関の協力等により制度を開始した。	

大学名	八戸工業大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	八戸工業大学
-----	--------

本事業対象となる学部等の回数	3
----------------	---

1. 本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)	改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
	学部学科名	工学部グリーン科学技術学科（予定）

[illegible]

大学名	八戸工業大学
-----	--------

(2)

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	工学部社会創造学部（予定）

[illegible]

大学名	八戸工業大学
-----	--------

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
------	---

学部学科名	工学部情報デザイン学科（予定）
-------	-----------------

[illegible]

大学名	八戸工業大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	八戸工業大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	300	300																	
		入学者数	人	190	185																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	300	300																	
		入学者数(B)	人	190	185																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.63	0.62																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1200	1200																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	1042	912																	
		編入学者数	人	2	1																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.87	0.76																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定							完成年度						
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	35,316	47,507	40,592	47,154	58,881	87,180													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	45,084
本事業による助成金の額(F)	千円	793,998
フェーズ3の助成期満終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	64,934

特記事項

「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」並びに「3.大学（学士課程）の状況」の編入学定員0人とは、若干名を意味している。